

1	日 時	平成23年11月17日 午後1時30分から午後2時15分まで
2	会 場	上田市役所 南庁舎 5階 第3会議室
3	出席者	塩入会長、眞壁副会長、池田委員、大久保委員、大平委員、金井委員、黒沢委員、 小山委員、下村委員、田中(明)委員、田中(道)委員、田原委員、長檜委員、橋詰委員、 舟見委員、丸山(晴)委員、丸山(正)委員、
4	市側出席者	宮川政策企画局長、片岡政策企画課長、浅野係長、平田主査 寺島東御市企画課長、島形青木村総務課長(代理)、竹内長和町企画財政課長、 宮崎坂城町企画政策課長、笹井立科町町づくり推進課長 中島人材開発課長、高木福祉課長、徳永高齢者介護課長、桜田健康推進課課長、 滝澤保育課長、樋口子育て・子育て支援課長、中部商工課長、高橋観光課長、 酒井農政課長補佐、内川森林整備課長、横井管理課長補佐、佐藤土木課長、 柳澤都市計画課長、中村学校教育課長
5	ワザバー	小野沢上小地方事務所地域政策課長
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 3人
8	会議概要作成年月日	平成23年11月18日

## 協 議 事 項 等

- 1 開 会 (片岡課長)
  - 2 あいさつ (塩入会長)
  - 3 協議事項 (進行:塩入会長)
    - (1) 議題の概要  
共生ビジョン(修正案)について
    - (2) 審議概要  
について、事務局から説明。
- <質疑・応答>
- (委 員) 産業立地・人材養成支援事業について具体的に伺いたい。
- (事務局) 各企業のコーディネーターの方を中心としてセミナー、研修会を開催していく予定。
- (委 員) ものづくりが盛んな地域で、実際にもものづくりの勉強・経験をする場、例えば、職業訓練校などを利用するというのも考えと思うがどうか。
- (事務局) 職業訓練校が地元の伝統のものづくりを継承する場としてあったが、廃校の予定。しかし、地元の溶接工協会が継続に向けて取り組んでいる段階。  
市としても今までのものづくりに貢献している場所なので今後とも支援していきたい。
- (委 員) 今あるものを後世に引き継ぐことも重要な考えであるので、維持していただきたい。
- (委 員) 子どもたちの、ものづくりへの関心を高めることは非常に重要な考えであるが、どのように子どもたちにアピールしていくのか。
- (事務局) 毎年秋に製造業を中心に企業の製品、研究成果などの発表の場として地域産業展を開催している。その中の一環として、「ものづくり教室」を行い、今年に関しては、高校生、各種学校の生徒を対象に企業側がどんな人材を求めているか、というような講演会も開催した。  
子どもたちへのものづくりに関しては、ものづくり推進キャリア教育として、地元企業の見学会、この地域ではどんなものを作っているのか関心を持っていただくような取り組みを行っている。また、公民館などでも、ものをつくるというような教室を行っている。
- (委 員) 公民館の教室で子どもたちにもものづくりを教えるというのはとてもいいことだと思う。  
創造館で小学1、2年生対象の科学実験室を担当しているが、大人が想像しないような発想をする子どももいる。こうした取組を進める中で、理科、科学離れがなくなり、ものづくりへの関心とつながると思う。  
公民館やいろいろ教材を使ったりすることを続けて提供することで子どもたちのものづくりや成長となると思う。
- (委 員) 学校が抱えている大きな問題として、不登校の児童、発達障害の児童の増加ということがある。スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー活用事業について大変ありがたいと思う。事業費が計上されているが、具体的な配置人数、運用方法について教えて欲しい。

- (事務局) カウンセラー、ソーシャルワーカー各1名を、新たに採用する予定である。  
現在、スクールカウンセラーは中学校区単位で配置し、周辺の小学校を見てもらっているが、ソーシャルワーカーは県に5人、東信地区には1人しかいない現状である。雇用の時間数、待遇については、県のカウンセラー、ソーシャルワーカーと同条件で考えている。各構成市町村の配置については、どのくらい時間が必要なのか予め協議し、派遣を希望する時間に応じて予算を組んでいる。
- (委員) 児童への支援も大変だと思うが、合わせて、保護者への支援も大切な事業だと考えている。健康プラザにある発達相談センターは非常に重要な位置にあると思う。医療、福祉、教育を一体化してやっていただいているのでありがたいと思う。  
この事業に関しても、子ども、保護者の支援をカウンセラー、ソーシャルワーカーと連携させてやっていただきたい。
- (委員) 商工団体の支援に加えて農業への支援もお願いしたい。  
先日、「全国農業担い手サミット in 長野」が開催され、多くの方が参加したが、年配の方が多く、とても担い手という形には感じなかった。子どもはもちろんだが、現在、農業ができる世代の方に興味を持っていただくとか、もちろん農業にも技術や新しい知識なども必要であるため、ただ農業修行に行くだけでは新しい情報が入ってくるわけではないので、上田を中心として、産業として農業も充実させて欲しい。  
農業プラス でやっていかれるよう、情報発信をして、ここに移り住んでやっていきたいと思ってもらえるような支援を具体的にしてほしい。
- (委員) 茅野市は土地が平らで、価格もそれほど高くはないからか、若い方の定住する人口が増えている。  
上田を中心としたこの地域でも、定住する人を増やすために、こんなこともできる地域というような魅力などを発信できたらいいと思う。定住自立圏という言葉からいつもそのように考えていた。それぞれの事業も大切だが、小さい形でもそんなことも含め実施していければいいと思う。子ども世代たちもこのままこの地域に住みたいと思えるようにして人口を増やし定住する人が増えるといいと思う。
- (委員) 私自身、農業を始めるに当たり、信用のある農場の名前をお借りして、農場を開墾することができた。ワイン作りをしたいという方がたくさんいるが、農地を簡単に借りることができない現状がある。  
そういったことを踏まえ、行政で活用されていない土地を管理し、希望者に斡旋できるような体制、又は、JA がまとめるなどの取組を検討して欲しい。
- (3) その他  
平成 23 年 11 月 24 日(木)に正副会長から上田市長に対して、共生ビジョンの検討結果を報告。